



ネイチャーセンターだより

2018年5月号

新・いきもの図鑑



ルリピタキ (ヒタキ科)

学名: *Tarsiger cyanurus*

(青い尾の特徴ある足の鳥)

4月に本州やそのさらに南から渡^{わた}って来る夏鳥です。写真はオスで、からだの上面が青くなるまでに3年ほどかかります。メスは体の上面がオリーブ色です。本州では標高1500mの亜高山帯^{あこうざんたい}で繁殖^{はんしよく}しますが、気温が低く緯度が高い北海道では、標高の低いところでも繁殖^{はんしよく}します。道内でも冷涼な地域の根室^{ねむろ}では、標高がわずか3mほどしかない春国岱^{しゅんくにたい}の林内でも繁殖^{はんしよく}します。春から初夏の間、春国岱を歩いていると、「ヒヒョロリヒーヒョロロリ」とアカエゾマツコースからルリピタキの鳴き声が聞こえてくることがあります。

【参考文献】日本の野鳥 650 (2014)、北海道野鳥図鑑 (2014)、原色非実用野鳥おもしろ図鑑 (2009) 巣と卵図鑑 (1999)、BIRDER (2018.01月号)

【野鳥】

本格的な夏鳥シーズンとなり、自然学習林ではウグイスやエゾムシクイなどが明るくさえずる。周辺の草原ではゴオオーと音を立てて急降下^{きゅうこうか}するオオジシギの姿が見られる。春国岱の森ではカッコウ、草原ではヒバリやノビタキがさえずり、干潟^{かんせつ}では北^{ほんしよくち}の繁殖地^{はんしよくち}に向かうシギ・チドリが休憩地^{きゅうけいち}として立ち寄る。



オーストラリアなど南半球から渡ってくるオオジシギ



くちばしで小石をひっくり返し昆虫や甲殻類を食べるキョウジョシギ

5月の見どころ



オオバナノエンレイソウ



ミヤマスマレ

【植物】

自然学習林では木の芽・草の芽^{いきお}が勢いを増してぐんぐん成長する。花はミヤマスマレ、ネコノメソウ・オオバナノエンレイソウなどが見ごろ。水辺ではミズバショウや黄色い花のエンコウソウが見られる。

見どころMAP

根室の日の出 日の入り

5/1	4:12	18:19
5/31	3:41	18:50



おとず 春の訪れ パート2

トピックス

■アオサギ <4/5、春国岱で1羽確認・過去4年間の飛来日平均 4/17>

7月中旬ころ、春国岱には90 - 200羽もの大群で飛来します。



■ミヤコドリ <4/8、春国岱干潟で2羽確認 (来館者情報)・過去4年間の飛来日平均 4/10>

その後少しずつ増え、20日に51羽を確認したのが今季の最も多い数です。(4/23 現在)

■オオジシギ <4/22、自然学習林で1羽確認・過去4年間の飛来日平均 5/1>

根室駅の草地など市内でもディスプレイフライトをする音や姿が、早朝や日暮れ時に見られるでしょう。根室では、急降下する音を雷に見立てて「カミナリシギ」や、湿原(谷地)で繁殖するので「ヤチシギ」と、別の名まえで呼ばれることもあるそうです。

■ベニマシコ <4/20、前浜湿地で鳴き声を確認・過去4年間の飛来日平均 4/18>

「ピ・ポ・ピポポ」とベニマシコの地鳴きを確認しました。

前浜湿地とはネイチャーセンターと海岸の間にある湿地のことで、ベニマシコのほかにノビタキやコヨシキリなども、毎年このヨシ原でさえずります。

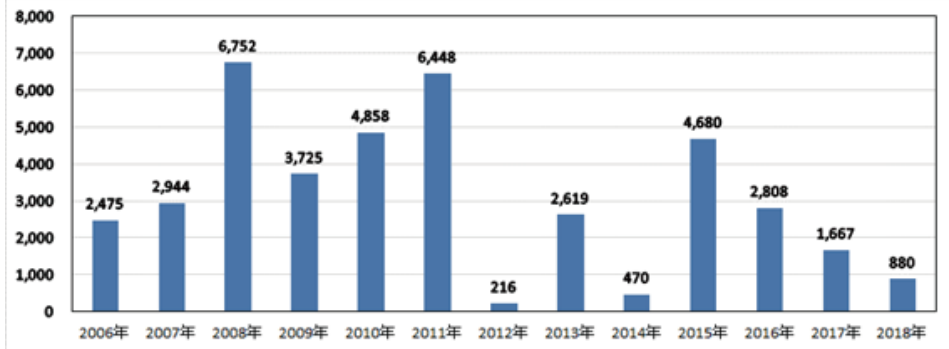


オオハクチョウの春の渡来数調査結果

場所	3/19	3/30・31
温根沼	190	439
風蓮湖東部	131	91
風蓮湖西部	236	350
合計	557	880

風蓮湖東部：春国岱、白鳥台、第一トウバイ川河口

風蓮湖西部：走古丹、風蓮川河口、槍昔、別当賀川河口



春季のカウントは年による増減が激しく、特に2012年3月と2014年3月は例年の最大値の平均（3,119羽）の1割前後という数字です。これらの年は湖の氷が8～9割残っていて水面がほとんど開いていなかったためと思われます。

これに対し今年は、春季2回めの3月30日にはほとんどの氷が溶けていました。にもかかわらず例年の3割弱だったことから、オオハクチョウがかなり減ったように見えます。

ところが、風蓮湖には夕方になると別海町方面から昼間はいなかったオオハクチョウが入ってきて、夜のねぐらとして使っていることが昨秋、偶然にわかりました。そこで、別海町のヤウシュベツ川河口にねぐら入りするオオハクチョウを数えたところ、3月19日には1,063羽、3月31日には2,843羽がねぐら入りしたことがわかりました。

これを昼間のカウント数と合計すると、3月19日は少なくとも1,620羽、3月30・31日は少なくとも3,723羽となります。このように昼間、オオハクチョウが湖の外で過ごすようになったのはいつごろからかはわかりませんが、3月のカウント数の増減に影響しているのかもしれません。

春国岱クイズ

今年も自然学習林の「エゾアカガエルの池」で、エゾアカガエルのおたまじゃくしが、うにようによと泳ぎまわる季節になりました。

さてエゾアカガエルやアマガエル、まとめて「カエル」のことを、アイヌの人たちは何と呼んでいたのでしょうか？



エゾアカガエル

- ①ピッカ
- ②ピッキ
- ③ピッケ

イベント情報！

お問合せ・お申込みはネイチャーセンターへ
お申込み方法は直接・電話・メールでお願いします（連絡先は下記に）
お申込み時は参加者全員のお名前、ご連絡先、小・中・高生は学年をお知らせください

観察会のお申込み時は、双眼鏡の有無もお知らせください



5/3（木）～6（日）の4日間
10：00～16：00
GW特別企画
ことりのこみちクイズラリー

ネイチャーセンターの隣の林“ことりのこみちコース”をクイズにチャレンジしながら春を探そう！当日センターで受付をすれば、どなたでも参加できます。参加賞、さらに全問正解賞のちょっとしたプレゼントを用意しています！

5/20（日） 10：00-11：30
「自然とあそぼう
ネイチャーゲーム」
※雨天室内

自然の中でゆかいに遊んで、生きもののことを学びます。
事前予約は不要です。どなたでもご参加いただけます。
外でも遊べる服装、長靴、帽子、虫よけ対策をして、
ネイチャーセンターに9時45分に集合してください。



◆保険代：一人100円
（主催：春国岱ネイチャーセンターボランティアグループスック）

申込要！
5/27（日）7：00～10：00
春国岱バードウォッチング
集合：ネイチャーセンター
※雨天中止

3月に新装開通した春国岱の木道を歩いて、海岸や森の野鳥を観察します。初心者の方を歓迎します。

対象：小学生～大人（小学生は保護者同伴） 定員：20名（先着）
持ち物：活動しやすい服装、長靴、帽子、飲み物、筆記用具、虫よけ対策（スプレーなど）、100円（保険代）、お持ちの方は双眼鏡

申込要！
5/27（日）
谷口高司「タマゴ式鳥絵塾」

野鳥図鑑の著書が多数ある画家の谷口さんから、バランスよく鳥を描くコツを教わります。

①10時半～11時半 対象は小学1年～4年生
草原のシンガー「ノビタキ」に挑戦

②13時～14時 対象は大人～小学5年生
雪の妖精「シマエナガ」を描きます
定員：各回20名（先着順）
参加費：1,000円（谷口さんのオリジナル缶バッジと
資材費）

（主催：（有）フィールドアート）



© 谷口高司

（イメージ図）

フィールドマナーを守って

自然と他の利用者にご配慮ください

- 1、観察路から外れないようにしてください
- 2、動植物の採取や捕獲はしないでください
- 3、ゴミはお持ち帰りください
- 4、所定の場所以外での喫煙はできません
- 5、春国岱入り口駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは禁止されています
- 6、キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください。



根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター（入館無料）

〒086-0074 北海道根室市東梅103番地

TEL. 0153-25-3047 FAX. 0153-25-8570

Eメール. nemu_nc@marimo.or.jp 最新情報はFBをご覧ください

URL. http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

◆休館日：5月1・2・7・8・9・10・16・23・30日

6月6・13・20・27日

◆開館時間：9：00～17：00

◆団体でご利用の方へ（要事前申込）

自然観察や学習、スライドの上映などのプログラムをご利用いただけます。

クイズのこたえ 答 ②ちなみに東北地方ではカエルのことを「ピッキ」と呼び、九州でも「ピッキー」や「ピキタン」と呼ぶ地域があるそうです。ちょっと似ていますね。

出典：帯広百年記念館編「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」（2018年出版）



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録